

事業番号	055
------	-----

平成23年度事業シート(概要説明書)《※平成22年度実施事業》

事業の概要	事務事業名	農業体験事業						担当部	市民産業部			
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	農政課			
	事業期間	平成19年度			～	平成30年度以降			担当係	農地係		
	総合計画 分野別計 画	主目的	6 産業振興		28 農業		3 農業にふれあう場の整備を進める					
		副目的										
	予算区分	款	6	項	1	目	3	大	2	中	3	
	根拠法令・個別計画											
	実施・運営 方法	<input type="radio"/>	市が直接実施・運営			<input type="checkbox"/>	地域住民組織		<input type="radio"/>	一部又は全部委託		
			指定管理・外郭団体			名称:						
			NPO・その他			名称:						
目的 (対象をどの様な状態にするのか)	農作業をしたことない方も含め、多くの市民に農作業に触れる場所や実習する機会を提供し、作物の栽培方法や施肥、病虫害防除に関する基本的な知識を講義を通じて習得し、また、習得した知識を実習農場で実践し、土づくりから作物の収穫までを体験することにより、農業への興味や関心を持ってもらい、将来の担い手の育成へとつなげる。											
内容 (手段)	<p>1年を春夏コース、秋冬コースの2回の講座とし、1回に20人の定員で講座を開催する。</p> <p>場所: JA尾張中央東部営農センター会議室及び実習農場(上末東山地内)</p> <p>受講修了後、希望者には農地の斡旋を行う。</p> <p>職員の業務内容: 委託業務の監督・指導</p> <p>受益者負担: 受講料5,000円(苗や種、肥料等の資材費は受講料に含まれないため実費)</p> <p>委託の内容</p> <p>(1)実習農園の管理: 年間を通じ、農場の草刈等</p> <p>(2)講座の運営: 講座を年間30回開催</p> <p>(3)新規農耕者指導援助業務: 講座修了後も農耕作を希望する者に、遊休農地を仲介・斡旋できるよう管理したり、耕作の指導援助を行う。</p>											
受益者負担	有	内容	受講料1人当り5,000円									

		単位	H21決算額	H22決算額	H23予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	2,289	2,190	2,341	
		正職員	従事者数	人	0.10	0.10	0.10
			人件費	千円	536	536	536
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0
		費用合計		千円	2,825	2,726	2,877
	対前年比		%		96.4		
財源	一般財源	千円	2,625	2,526	2,677		
	国・県支出金	千円	0	0	0		
	その他財源	千円	200	200	200		

業 績	活動指標	活動指標名	単位	H21	H22	H23	
		体験講座受講者	人	目標	40	40	40
				実績	40	40	
				目標			
				実績			
				目標			
	実績						
	成果指標	成果指標名	単位	H21	H22	H23	
		「農業に対する興味が深まった」とのアンケート回答(回答者割)	%	目標	90	90	90
				実績	100	100	
			目標				
			実績				

事業の自己評価(一次評価)	事業目的の達成状況	受講生は定員に達しており、草刈や土づくり等、重労働の実習作業を伴う講座だが、受講修了後のアンケートでは、回答者の100パーセントが、農作業への興味が深まったとの回答をしている。委託先であるJAが、半年の受講終了後も実習農園を良好に管理している。				
	事業を廃止・休止したときの影響	農作物の栽培に携わったことのない市民が、耕運機の使用や施肥、農薬散布といった、農地を管理する作業を体験し、作付けから収穫まで、講師の指導を受けたり、作物の生育状況などを相談できる機会は少ない。 単純に貸し農園とした場合、利用者の農作業に関する知識や意欲の差もあり、貸し農園の中での耕作放棄地化や、それに伴った利用者間トラブル等新たな問題が発生する。				
	判定	B	市が実施(改善が必要)			
	判定理由	講師は、我流の農作業経験でなく、植物の生育の理論や、肥料、農薬に関する理論など、一定の知識をもった人物が適当である。そうした講師を依頼するには、JA尾張中央との連携が不可欠であり、農地を管理するノウハウや機械もあり、東部営農センターと実習農園との立地条件もよい。 現在は講座内容、実習面積ともに初心者でも受講できる内容を実施しているので、経験者や、受講後に農業者として自立を目指すような人を対象にした内容の講座については、現在の講座とは別に検討する必要がある。				
	今後の事業の方向性(今後の取組み・改善計画等)	本事業での経験をもとに、家庭菜園以上の規模で新たに農地を活用し、事業としての農業に参入していくような修了生が出るのが望まれる。 現在の事業内容は、初心者からを対象としたものとして概ね好評であるが、実習農園の面積から、定員を増やすことや、通年講座とすることは難しい。 今後、新たな実習農園の可能性や、新たな農業の担い手となるような経験者向けの講座の可能性について、関係各方面と連携していくこととする。				

二次評価	判定	B	市が実施(改善が必要)		
	判定理由	外部評価対象事業			